

eco's 通信

2009
4月
vol.191

地域との調和をはかる

「私ってきれい？」

緑のタンク誕生！



これから、私たちは、お客様に再生燃料油を安定供給するために、安心・安全でムリ・ムダの無い設備と工場をつくっていきます。前35期は老朽化した設備を更新しました。

今期は、タンク施設メンテナンスの一環として、屋外タンクの塗装を行いました。今までは、銀色や黒色で、いかにも工場といったイメージでしたが、今春入社した藤原社員のフレッシュな感性をもとに、社員で相談し周りの自然と調和するように優しいイメージの緑色に決めました。

前回塗装した際、タールエポキシ樹脂を塗ったことで30年の風雪に耐え、表面的な錆のみで、構造上、使用に差し支えるような錆はありませんでした。今回も潮風に強く、耐油性がある塗料を使用しました。このたびの塗装に合わせ、ローリーステージの塗装も行いました。きれいになると扱いが丁寧になり、行動も慎重になります。

収集された原料を安定して製造し、安定して供給できる設備に変え、徹底した5Sにより、さらに安全を増していきます。そして、地域との調和を図り、地域に貢献し続けられる会社へ進化していきます。

(木村憲・長野)

繁盛店訪問

永瀬石油株式会社

松江東朝日町サービスショップ 様

〒690-0001 松江市東朝日町123-1

TEL 0852-61-0980

FAX 0852-61-0981

営業時間：7:00～21:00（暫定的）、無休



笑顔がすてきな土居店長様

お客様とのコミュニケーションを大切に

セルフ主流の中、フルサービスのお店として3月5日にオープンしました。伝統のある永瀬石油様のこだわりです。松江サティの正面にあり、とてもにぎやかで、立地条件がよいところです。明るく元気で大きな声を出しながらの作業で、お客様が次から次へと給油をしに来店されます。

お客様は、若い人から年配のかたまで、幅広い年齢層の方々がいらっしゃいます。お客様に、当SSに寄ってもらえるよう、マル秘サービスも検討中だそうです。ご期待ください。

「SS前の道路を通られるお客様全てが、うちのお客様だというように、スタッフ全員が意識して接客しています。サービスに百点はありません。接客に百点はありません。しかし、百点を目指していかなければなりません。接客技術を上げて、さらにお客様が増えるよう目指していきます。」と土居店長様。

永瀬石油様は、お辞儀がとても丁寧です。「7秒礼」といって、7つ数えて頭を上げます。そのときの状況に応じて、臨機応変にその時間は変えていかなければなりません。お客様に感謝の気持ちを伝えることに変わりはありません。

「お客様とのコミュニケーションをとり、つながりを大切にしていきます。スタッフの人間力をいかしていきたい」と、土居店長様から、力強いお言葉をいただきました。



女性に人気のフルサービスのお店です。

フルサービスを極めると「7秒礼」

クーラントのリサイクル機



当店は、クーラントのリサイクル機を導入されています。排液もリサイクルすれば、廃棄物になりません。環境に優しいのです。また、廃棄物が少なくなれば、その処理のコストを抑えることができます。当店の前は人通りが多く、大橋川にも近いので、排液がもれたら大変なことになります。

自動車整備士の資格をお持ちの奈良井さん。最新の設備で実力を発揮します。



とても元気のいい中嶋さん。窓ふきからマット洗いまでやっていただきました。明るく元気な声での接客で、店全体が盛り上がります。中嶋さんの元気な声でお客様がどんどん入ってくるようです。

改善会議 「安定操業のために」 平成21年3月25日

他社で、タンクローリーから保管中の油が漏れる事故が発生したことをニュースで知りました。当社で問題はないか確認したところ、原料の受け入れが滞り気味で営業所タンクが満杯であることがわかりました。

原料を集める（エネルギーサポート事業部収集係）、再生燃料油を作る（製造係）、再生燃料油を販売する（販売係）の三部署の連携がうまくとれていなかったため、当社の原料の在庫管理がきちんとなされていませんでした。今後は、情報を共有し工場の再生燃料油、原料の在庫量を確認しながら作業していきます。

本会議で決まったことは次のとおりです。

- ・営業所の4番タンクは常に空の状態にし、余裕をもたせる。営業所の在庫管理は、松本・木村両社員が連絡を取り合い行う。
- ・受け入れタンクに余裕を持たせるために、工場の日々の製造計画を見直す。

お客様に安心して頂く為にも、いつでも収集に伺える体制、余裕を持った製造計画、いつでもお届けできる配送体制と製品在庫を確保していきます。（長野）



エネルギーサポート事業部のメンバーが集結し、それぞれの立場から意見を出し改善します。

今月の改善

平成21年4月4日	伊達山
加温タンクの蒸気配管の掃除をしました。	
現状	温度上昇が悪く、原料を水と分離させる適温まで上がりにくかった。
提案	分解して、配管にこびりついたスラッジをそぎ落とした。
効果	タンク内原料の温度上昇が確認できた。これにより原料処理能力を上げる可能性がでてきた。



蒸気配管の清掃前（左写真）と清掃後。木村課長、石原社員と一緒に、サンダーをかけました。

誤操作による油漏れ

3月3日、松江営業所構内で、操作ミスにより、油漏れが発生しました。廃油を地下タンクへ注入中に、注入口から油があふれ出したのです。すぐにタンクローリーのコックをしめ、吸着マットを構内の側溝に詰めて、外部へ流れ出ないようにしました。幸い、外部へ流れ出ることはありませんでした。

1番タンクへ注入したつもりが2番タンクへ注入していたのです。日頃の習慣で、思いこみ作業がクセになっていたと思われます。今後の対策として、次のようにやっていきたいと思えます。

- ・作業動作を一つずつ、指差呼称します。
- ・車輛のポンプ操作レバー付近の見える場所にシールを貼ります。 “注入口ヨシ！！”
- ・油注入作業中は、車輛の周囲を見回りながら、油がこぼれていないか、絶えず確認する。



素早い対応で、外部に流れ出ることはありませんでしたが、油を扱うプロとしては大問題です。

新入社員紹介

出雲養護学校の現場実習からアルバイトを経て、4月1日付けで入社し、新入社員教育を行いました。



藤原社員

研修のまとめ

2日目の午後から社長の研修を受けました。「あとからくる君たちへ伝えたいこと」という本です。この本を読んで、お客様にしてあげる幸せを目標にしていきたいと思えます。

また、社長から、「給料は誰からもらうのか」と聞かれました。私が思うには、どこの会社もお客様に製品を買っていただき、そしてお金をいただき、それで給料をいただけるのだと思います。これから外に出て、お客様のところへいくのですが、このことを心がけていきたいと思えます。

その後、石原さんに溶接を教えていただきました。早く、溶接を覚え、お客様に安心して使っていただけるタンクが作れるようになりたいと思えます。

今年の目標は、危険物取扱者 溶接資格取得です。

早く仕事に慣れ、会社の戦力になるようがんばっていきます。宜しくお願いします。（藤原）

神西湖一斉清掃

3月29日に、神西湖一斉清掃が開催され、私たちも参加しました。今回は、天気にも恵まれ、約400人も地域の人が参加されました。私たちは、大量の漂着ゴミがある神西湖東岸のゴミ拾いをしました。枯れた蘆の折れ枝もたくさん堆積していて、それらをゴミ袋に回収し、約800袋になりました。私たちが扱う廃棄物は、お客様によって分別されていますが、今回のような自然ゴミは分別されません。分別して初めて資源として生きてきます。リ



サイクルの難しさを感じました。（長野）



こんなにきれいになりました。不法投棄、ポイ捨てはやめましょう！！

元氣の出る言葉

中村天風師

おいと呼ぶにも笑顔、
はいと返事するにも笑い顔

笑いにはいかなる薬よりも効果があり、
人生を極めて美しく彩る力がある。

（君に成功を贈る）より、日本経営合理化協会刊

本書でたびたび説かれ、自分でも承知しているはずですが、しかし、落ち込んでしまったときは、なかなか笑顔は出てきません。本書を何度も読み返し、自分を奮い立たせます。そして笑顔を作ります。そして笑顔で通すよう努力しましょう。（長野）



特別寄稿 「会社の不思議」

コスモT&S

松宮社長様

高名な解剖学者の養老猛司さんは「仕事は他人の為にするものです」と言っておられます。仕事は自分の為であるとおっしゃる方もおられるかも知れません。しかしそれは糧を得ているとか、仕事に満足しているという意味で自分の為にしているということではないと思います。

畢竟するに、私も仕事そのもので自分の為にしているものは皆無だと思えます。自分のした仕事で他人の役に立ち、他人の満足を得、そのことに直接的、間接的に自分が満足を感じるという構造だと思えます。会社はこれを実現するための舞台のようなものだと思います。よい心根の社員が自己研鑽を積み、互いに助け合いながら、仕事に取り組むことにより、骨董品を鑑定するテレビ番組の先生が「いい仕事してますね！」と言われるような組織がよい会社だと思います。

ところで、現代の会社という組織は今でこそ沢山ありますが、自然発生的に生まれたのではなく、今日の会社の原型は未だ150年程度の歴史しかないようです。中でも私が最も感心しますのは、1 + 1が2ではなく、2以上のものを会社という組織は生み出すことが出来るのが不思議な所です。確かにイチローのようなスーパースターが居なくても、普通の社員の集まりにも拘わらず、途轍もなく大きな成果を生み出している会社が時に見かけられます。大小に関わらず、会社という組織は本当によく考えられた人類の英知の賜物だと思います。

ちなみに養老さんは「自分のため」にするのは趣味の「昆虫採集」だとのこと。ゾウムシを求めてアマゾンの奥地や世界中を回って採集し、その生殖器の研究をされていますが、昆虫学者も顔負けの凄レベルのマニアとのこと。

それにしても面白い趣味ですね。

「オール1の落ちこぼれ教師になる」を読んで

オール1の落ちこぼれが教師になっています。著者の宮本延春さんは「目標」を明確にして、それに向かって強い意志を持ち続けていたのです。大嫌いだった勉強が、「目標を達成させる」という気持ちで、勉強を好きにさせた。目標を「高校入学」から「大学進学」に変え、さらに高い目標に向かって努力した。常に目標を持ち、その目標に向かって努力する。大変なことであると思うが、大切なことである。人生において、「目標」を立てている人がいるだろうか。自分もどんな小さな事でもいいから人生の目標を設定したい。その目標達成のために努力する。目標達成の喜びを感じ、自分の人生を楽しみたいと思う。（吾郷）



陽光という品種の桜です。村田製作所の一般公開にて。

社長が薦める今月の一冊

4月の推薦図書

あとからくる君たちへ伝えたいこと 鍵山秀三郎著 致知出版



藤原君の新入社員教育で、彼と一緒に、この本の冒頭部分《人生をよくする「三つの幸せ」》を読み合わせしました。その三つの幸せとは、1.「してもらう」幸せ 2.「できるようになる」幸せ 3.「してあげる」幸せと、鍵山さんは訴えています。

私たちは、赤ん坊の時、おかあさんから何かをしてもらうとうれしい。やがて成長するにつれ、自分で何かできるようになると「やった - 」とうれしがる。成長して、人に何かしてあげ、人の喜んだ顔を見ると幸せになった気分になる。この「してあげる」幸せを続けていくと、どんどんその人の人生が良くなっていく、というのです。

そのあと藤原君に質問しました。「私たちの給料は、誰からもらっているの？」彼の回答はすぐさま、明快に「それはお客さまからです！」でした。高等部出たての藤原君のこの回答には、正直びっくりしました。誰から教えられたのかはわかりませんが、これからの仕事のなかで、お客さまに「してあげる幸せ」をひたむきに続けて欲しい。

そして矢田先輩のように、お客さまから「藤原君の仕事はていねいだ」「今度も藤原君に来て欲しい」と言ってもらえるように成長してくれることを楽しみにしています。

(山根)

原稿を公募します

本誌の原稿を公募します。800字～1000字程度で、身近な出来事をテーマにしたものを希望します(例えば、感動したこと、うれしかったこと、旅の思い出、おいしいお店など)。随時受け付けます。内容により不採用の場合はお許しください。編集部あて、どんどんお寄せ下さい。薄謝を差し上げます。

今月のクイズ

解答を下記編集部までお寄せ下さい。応募の方法は、ファックス、電子メール、ハガキ、営業マンに渡していただいても結構です。正解者の中から抽選で1名様に賞品を差し上げます。今月の賞品は、八十八夜新茶です。締切は4月末です。奮ってご応募ください。

Q: 春から夏に移る節目の八十八夜は、だいたい5月2日頃ですが、いつから数えるのでしょうか?



先月号の答えは「10」でした。抽選の結果、雲南市矢壁様が当選です。おめでとうございます。

応募用紙(答)

会社名または住所、氏名

FAX 0852-37-2472 E-mail h.nagano@e-skk.co.jp

編集後記

今年開館10周年を迎える島根県立美術館は、宍道湖岸に建ち、宍道湖とともに美しい景観を作り上げています。ロビー西側がすべてガラス張りで、「日本の夕日百選」に選ばれた、宍道湖の夕日を見ることが出来ます。館外へ出ると、宍道湖岸の芝生にかわいい12羽のうさぎのオブジェがあります。宍道湖から2番目のうさぎに、西を向きながら触ると幸せが訪れるという噂です。しじみをお供えするとさらに効果が上がるそうです。これを目当てに、若い女性観光客がたくさん訪れているようです。美術館と宍道湖は一体となって、大自然のアートをつくりあげているようです。これらは、私たちの誇れる財産です。県内外の方にも広くPRしていきたいと思えます。(長野)

蔵書新着情報

- ・「木を植えた人」 ジャン・ジウ こぐま社
オイルリサイクル協同組合山田様より寄贈
- ・「蔵人」 7巻 尾瀬あきら 小学館
- ・「島根の技術者」
松江工業高等専門学校学生支援GP出版委員会編
山陰中央新報社



島根県立美術館のかわいいうさぎたち

発行日: 毎月10日
発行: 690-0025 島根県松江市八幡町796-20
TEL 0852-37-2470 FAX 0852-37-2472
山陰興業(株) ECO'S通信編集部長 長野
E-mail :h.nagano@e-skk.co.jp

ホームページ公開中(<http://www.e-skk.co.jp>)